ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部

リハビリテーション学科

理学療法専攻

人間科学部　心身健康

科学科（通学課程）

名　前　石 塚 大 悟

作成日　2026年4月30日

１．責務（何を行っているか、何を果たしているか）

私は現在、保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻の専門科目（「日常生活活動学」「急性期理学療法学」等）と、人間科学部心身健康科学科の科目（「高齢者福祉論」「心身健康科学の探求Ⅰ・Ⅱ」等）の双方において、講義および実習指導を担当しています。科目責任者としては、シラバスの策定から教材開発、成績評価基準の構築までを一貫して担い、多様な学生のニーズに応じた教育の質の担保に努めています。

学内運営においては、FD・SD委員会での教職員の資質向上活動、地域産学連携委員会における大学と外部組織のネットワーク構築、そして学修支援ワーキンググループでの学生の定着支援など、組織運営に多角的に関与しています。特に、若手教員として学生の心理的・学修的障壁を敏感に察知し、教員と学生の橋渡し役を果たすことに注力しています。また、2026年度からの科研費（若手研究）採択を受け、自身の研究活動を単なる学術的成果に留めず、最新のエビデンスをリアルタイムで授業に反映させることで、常にアップデートされた知見を学生に提供する社会的責任も果たしています。

２．理念（教育に対する考え方）

私の教育理念の根幹は、教員自身が「生涯学習者」として、未知の領域に挑み成長し続ける姿勢を学生に示すことにあります。大学生活は、学生が「自律した専門職・社会人」へと変容を遂げるための極めて重要な準備期間です。この4年間で習得すべきは、専門知識や技術のみならず、複雑な現代社会を生き抜くための「人を想う力」や「主体的に行動するスキル」であると確信しています。
私は、教育を一方的な知識の伝達とは捉えず、同じ「より良い社会を目指す専門家」の卵である学生と対等に向き合う「横の目線」を貫いています。教壇に立つ際、私は一人の先行学習者として学生の隣に立ち、共に問いを立て、共に解決を模索する伴走者でありたいと考えています。学生が失敗を恐れずに挑戦し、分からないことを素直に言語化し、自律的に問いを立てる力を養えるよう、心理的安全性の高い学修環境を構築することを全力でサポートしています。

３．方法（教育方法において大切にしていること）

教育の実践においては、学生が主体的に学ぼうとする意欲を引き出すため、以下の3つのアプローチを軸にしています。
第一に、「思考のプロセスを共有すること」です。単に正解を教えるのではなく、自身の研究経験や臨床での経験を踏まえ、どのようなステップで物事を判断すべきかという思考の流れを丁寧に解説し、学生が自分自身で考えるための「道筋」を立てられるよう支援しています。
第二に、「無理のない定着の仕組み」です。毎回の授業冒頭で前回の重要事項を確認する小テストを実施し、自然と復習の習慣が身につくよう工夫しています。また、学生から「見やすく、要点が整理されている」と評価をいただいている穴埋め式のレジュメを提供し、書く作業を通じて理解を深める機会を作っています。
第三に、「臨床と学問の橋渡し」です。教科書的な知識に留まらず、自身の臨床経験や研究活動から得られた知見をエピソードとして交えることで、学びが実際の現場でどのように役立つのかというイメージを具体化しています。実習指導や演習においては、車椅子や自助具などの実機を用いた体験を重視し、学生が楽しみながら主体的に取り組める場を提供するとともに、学生との対話を大切にしたコミュニケーションを徹底しています。

４．成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

これらの多面的な取り組みは、数値および学生の質的変化として明確な成果に繋がっています。2026年度前期の授業アンケートにおいて、担当する「日常生活活動学」では、総合満足度、教材の役立ち度、質問への誠実な対応の各項目で5点満点中4.7という極めて高い評価を獲得しました。特筆すべきは、学生の「自主学修（予習・復習）」のスコアも平均を大きく上回っている点であり、これは小テストやレジュメを用いた動機付けが機能している証左と言えます。
自由記述では、「実技を通じて臨床現場のイメージが明確になった」「レジュメが見やすく、難しい内容も理解できた」といった具体的な学習成果の報告が相次いでいます。また、今年度より本格化した心身健康科学科の科目においても、理学療法学と公認心理師の両面からの知見を融合させた授業が「多角的な視点が得られる」と好意的に受け止められています。さらに、自身の博士号取得や国際誌への論文掲載という学術的成果は、授業で伝えている「学びの継続」の意義を体現する強力なエビデンスとして、学生の学習意欲にポジティブな影響を与えていると考えています。

５．目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

今後の展望として、短期的には、現在遂行中の科研費プロジェクトなどを通じて自身の専門性をさらに高め、より深く、かつ噛み砕いた解説ができるよう教育の質を洗練させていくことを目指します。
中長期的には、理学療法士および公認心理師としての知見を活かし、学生一人ひとりの状況や個性に合わせた学修サポートのあり方を模索していきたいと考えています。具体的には、学修支援ワーキンググループでの活動を通じて、学生が前向きな気持ちで学業に向き合えるような環境づくりや、自分に合った学習スタイルを見つけるためのアドバイス体制を整えていく計画です。
また、心身健康科学科の教育においても、地域産学連携の活動などを通じて、学生が教室の中だけでなく、社会との繋がりを感じながら学べる機会を少しずつ増やしていければと考えています。これらの活動を通じ、学生が各分野の知識を自分のものとし、自信を持って社会へ一歩踏み出していけるよう、教育者としての探求を続けてまいります。

＊ 表紙を含め、全体として、3 ～10ページ程度とします。

【添付資料】

＊ TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、
すぐに確認できるようにしておきます。）

2026年度 授業評価アンケート集計結果および自由記述フィードバック表

学術論文：Ishizuka, D. et al. (2026) "Preoperative Functional Disability and Perioperative Life-space Mobility..." (Physical Therapy Research)

2026年度 科学研究費助成事業（若手研究）採択通知書

学会発表抄録：World Physiotherapy Congress 2025 発表資料

保有資格証写し（理学療法士・公認心理師）